

令和3年度 第2回研修会報告



テーマ：発達に困難のある人に対する理解と合理的配慮の視点

講師：太成学院大学 看護学部 錦織史子先生

日時：令和3年11月21日（日）リアルタイム配信研修 80名

令和3年12月1日～令和4年1月10日 オンデマンド研修 125回

1. 講義内容

看護という仕事を遂行するためには、高いコミュニケーション能力と見通しを立てて行動する力が求められています。しかし、そこに困難さを感じる学生がいることも事実です。まずは、彼らを知ることから始め、今後必ず必要とされる合理的配慮や、チームとして支援に当たれるように学校全体で取りくむことが重要とお話がありました。

概要：発達障害の傾向がある学生に共通する特徴は認知機能が弱いことである。①聞く（聴く）力の弱さ、②見る（観察する）力の弱さ、③想像力→時間の概念の弱さから、対人スキルの困難さを生じ、助けを求められない人となっている。また、何を言われているかがわからずすべてが怒られたとなり、振り返りができない。感情コントロールにおいても脆弱ですぐに折れやすい。これらの学生にどのように接していくのか。従来の、説明すること、本人に考えさせること、振り返ることは、これらができるほど学生の認知機能は発達しておらず難しい。では何が必要なのか、3つのキーワードを挙げられた。①このような特徴がある人だと理解すること、②歩み寄り配慮しあうこと、③その人に応じた環境調整である。各看護師養成所においては、発達障害のサポートは整っていない施設が多い。教員対応することが圧倒的に多いが、今後は役割分担が必要である。また、合理的配慮とは、一人の教員が抱え込まずチーム全員で配慮の事柄を統一することが大事で、評価基準を下げるのではなくあくまでも困っていることに対する支援である。



2. 振り返り

アンケート回収62件。アンケートでは、講義内容についてすべての人が「大変良い」「良い」と答えられており、「発達障害が考えられる学生とのかかわりを振り返ることができた」と好評でした。リアルタイム研修とオンデマンドを併用しましたが、リアルタイム研修については、「質疑応答がとても参考になった」という意見が多数見られました。オンデマンド研修では、何度も受講された方もおられ、有意義に活用されていました。一方、音声の問題や質問を予め受け付けるなどのご意見もいただき、今後検討していきたいと思えます。

